

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0943
施設名	そあ季の花保育園
施設所在地	練馬区大泉学園町2-22-14
法人名	社会福祉法人砂原母の会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「木」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・「木」は子どもたちの生活に大変身近なものである。自分が住んでいる家や家具、庭にある植木など様々なものが「木」から出来ている。
- ・「木」にはどんな種類があるのか、匂いの違い、花や実がなるもの、葉っぱの違いを知りたい。
- ・幸い保育園には、樹木がたくさん植えられており、果樹もある。製作に取り組める場所もある。それらを活用して活動を展開したい。

## 2. 活動スケジュール

9月3日 第1回木育ワークショップ  
11月20日 第2回木育ワークショップ  
12月13日 木育大学  
1月30日 バス遠足  
3月27日 レモンの木移植

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・【木育ワークショップ】 ヒノキの端材、穴開け工具(ドリル)、ノコギリ、グルーガン、油性ペン、ヒノキのカンナ屑風呂
- ・【火起こし】 耐火煉瓦、軍手、薪、マッチ、水バケツ、新聞紙、消火器、トング、飯盒、竹筒
- ・【竹の灯ろう作り】 竹、ドリル、竹用のキリ
- ・【竹の家作り】 竹、ナタ、ノコギリ、釘、ハンマー、

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- 木育ワークショップ ・ヒノキのカンナ屑風呂で、ヒノキの匂いを感じ、楽しむ。
  - ・端材を組み合わせることで、動物や乗り物、ロボットなどに变化していくことを楽しむ。
  - ・穴開け工具を用意した事で、竹に穴を開け、とうろう作りに発展した。
- 木育大学 ・すくわくプログラムの対象児の担任である保育士が実際に奥多摩に行き、ヒノキや杉の森がどのように育っているのかを知る。また、子どもたちに提供する端材やカンナ屑の材料がどのように作られているのかを知る。更に実際に工具を使って製作する体験をする。
- バス遠足 ・子どもたちから、「端材やカンナ屑がどこで作られているのか知りたい。」「ヒノキがある山に行ってみたい。」という声が聞かれたので、冬の寒い時期であったが、奥多摩へバス遠足に行った。工場見学だけでなく、木を間伐（切り倒す）する経験も出来た。
- レモンの木移植 ・園舎の中庭にあるレモンの木を見ていた子どもが、「どうしてレモンの木なのにレモンができないの。」と言った。周りにいた子どもたちと意見を出し合ううちに、「奥多摩の山の木には、太陽がいっぱい当たっていたよ。」と言った一言から、日当たりの良いランラン広場に移してあげようということになり、急遽移植をお願いした。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ・竹林からもらった竹を使って5歳児は「灯ろう」作りに挑戦した。紙に描いた絵の線に沿ってドリルで穴を開けた。初めて使うドリルに最初は戸惑いを感じる子もいたが、保育者と一緒に穴開けをする様子を見て、全員が参加した。保護者にも呼びかけ、4名の父母が子どもと一緒に穴開けを体験した。
  - ・端材での工作だけでなく、もっと大きなものを作りたいと竹で家作りが始まった。竹を半割りにしたり、釘とハンマーで壁や屋根を作ったり、作業内容を子どもたちが話し合っていて決まっていた。
  - ・12月に行なった「夜の保育園」では、耐火煉瓦でかまどを作り、近所の図書館の庭で拾って来た枯れ枝を薪にして火起こしをし、竹筒でお米を炊いた。竹の「灯ろう」の中に入れたろうそくの灯が子どもたちの絵を浮き上がらせて幻想的な光を放つ中、竹筒で炊いたご飯と豚汁を味わった。
  - ・木育ワークショップで使用している「木」がどんなところで育っており、その木の皮をむいたり加工する機械を見学したことで、「木」に対する見方が広くなり深まった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・木を使った製作に取り組んでもらう為に、ドリルやノコギリ、グルーガンを揃えた。「危険だからやらせない」ではなく、「どうすればケガをしないで使えるか」「何が危ないのか」を考えた。保育者と一緒に使うことで、「出来る」体験をすることが出来た。
- ・ベニヤのテーブルを製作したことで、園庭で給食を食べる事が日常化した。そして自分たちで準備し片づけることが習慣づいた。友達と協力し、楽しそうに準備している姿が増えた。開放された空間で食事をする事で、会話も増えた。それまでのランチルームで給食を食べることが当たり前という固定概念を払拭した。
- ・工具を使ったり、火起こしに挑戦したり「木」を活用して今までにない初めてのことを体験した。その体験が、個々の自信につながった。